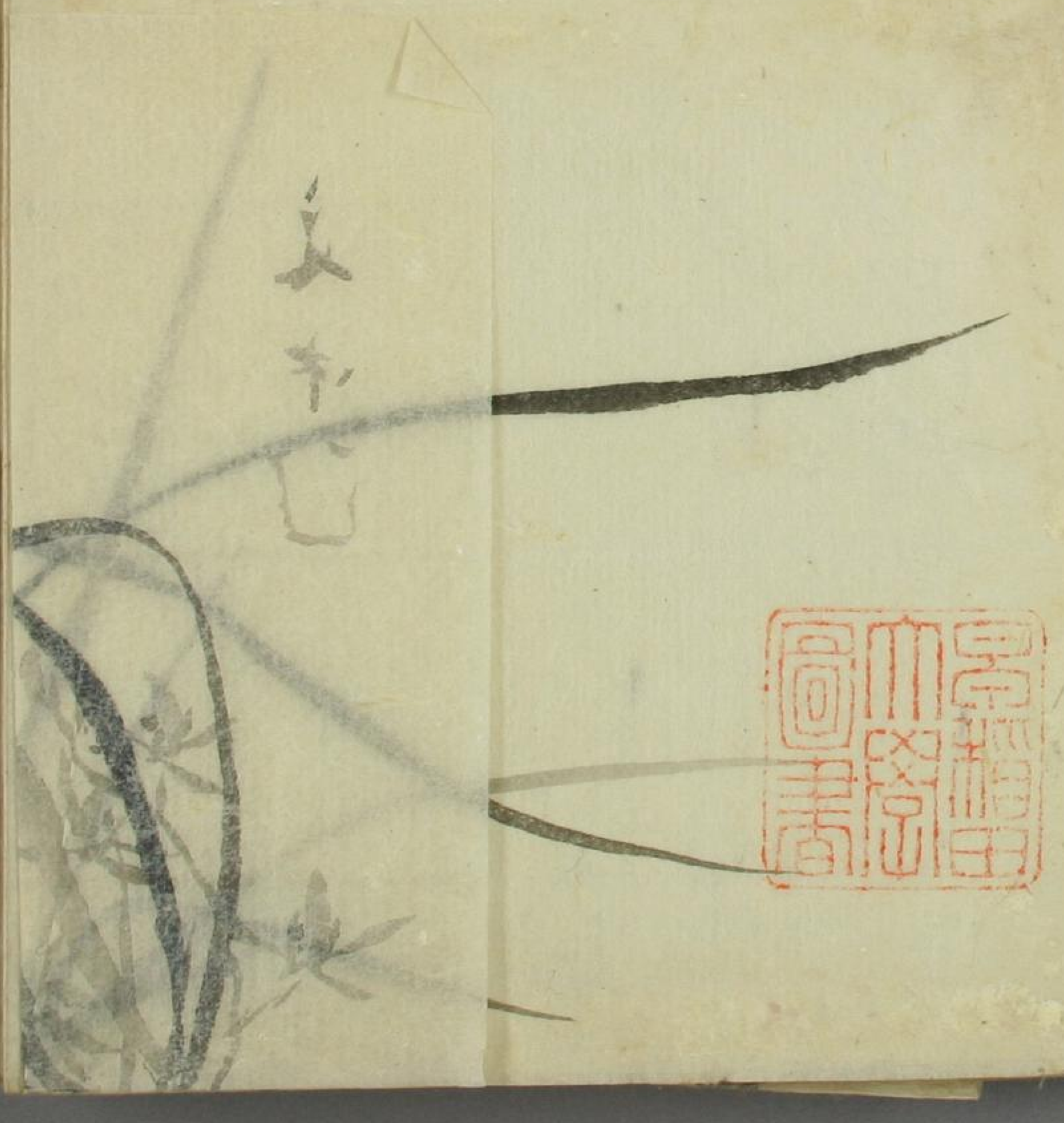
井蛙漫録

三

イ曽5
486
3

巻之中　[illegible]



門 イ・5
486
巻 3

岩之文中 自筆[illegible]

門 イ・5
486
巻 3

月つたふ志川の名や
萩の夜けり
せミ鳴や志乃岸の
記き所
宇吉
楽得
より

一嘉永六丑年六月三日未之中刻相州浦賀湊沖江異国船
四艘渡来浦賀奉行所ゟ番方同心組頭
与組一番船ゟ六番船を以速出之処右当所ハ
北亜墨米利加洲之内共和政治ワシントン（イハモンシトン）中都府之軍艦ゟ
アメリカ国ゟ日本国王江使者之船之由軍艦四艘
之内ナーシキフ（イフレカワト）二艘将官乗船之ストームシキワツ（イストンホウモ）
蒸気船之丁船長サ凡三拾六間程幅八間程橋二本

遣出之橋者金ニ而趣冥塗ヲイツキニテコケラ葺根之如ク
鉄板張玉ハ其外隅々ハ船庇之先銅板ニ而包在之
中ニ之橋ト書之橋之内ニハ蒔繪ニ而車右前後両輪ニ鉄
ニ而製造之車帰之節ハ右乃弥帽子共ニ余車者船之外ニ
而車形之半分白塗之上段船之内合盗出之中白半門之
後方ニ余ハ船之内合船之外之車ヘ遣出之上帽子乃弥
柱有之ハ九柱之門内其脇ニハ蒔繪ニ而之標ヲ出シ鉄ニ而造

何半年集合之七丹乃弥渡り者之方ニ袖之柱見ル
上ニ旗標出居候ハ船之外押ニ金ニ而鷲之彫物有之候之又
官朝ニ而去大将夜梶両脇ニ二挺宛六挺船合格段挺ケ山平
九七又カヒ何者出店大章之老鉄ニ而折押之杯子人数之百人
神之陣ハツテ任ル六艘黒白塗毎結在之
一副将舎船之外蒔繪ニ而船橋惣蒔繪之車大将大将其ハツ
テ付ラ新而前ニ刃外押之荒金ニ而庵竹之彫物在之

艤志申ニ令ス艦之船將並左右アメリカ國之官令ニテ
戦✡船將並上ニキヤマン板之窓四ツ下ニ窓ヲ明ケ板ケ鉄之
掃戸ナリ其外都テ茶門所ナリ橋志船之割合船之
内訳艘コルヘツト軍艦コルヘツト大之方船長廿廿五間ニテ
幅六間程橋ニ三本船尾ニ銅板ヲ張鉄包ニテ板張両舷
二尺程ノ黒塗ニ中程ニ白塗之節船縁細クナリ之所
押之竟志金之高サ之船尾ヨリ艫之風ヨ入ニ窓ヲ設ケ鉄板

劔戸ヤ夜梶両梶大筒拾壱挺丸ク艫ニ二挺都合廿貳挺
人數武百人ケウエールヒストン（ケペエル）ニハ士官士卒之共銃之拵居之
将ハ艘コルヘツト船宜之方船橋并茶門都大筒左梶
両梶拾挺人數百五拾人余小筒茶門都将ハパツ二丁ヲテ
六艘右四艘共大筒備并之外船中ニ數挺積置候
カン筒ニ十三ポンドヨリ三十ポンド（マニア）迄六十四ポンドハ十ポンドト
枚子ノヤ

右之為六月朔日大清之広東より出帆英吉利船壱艘コルヘツト
壱艘乗組其外異船ノ為ニ今日来着之中刻より二百人ニ渡来
一此度渡来之船アメリカ国ワスヒントンヤニ而浮艾会ハ（ワシントン）
ハスヒンゲトンニハ要之カルホルニヤノ軍艦之内アメリカ
別ハ十弐ケ国ニ相成候ハスヒンクトンハアメリカ一州之国主
之都府ニ而ハスヒンクトンヤ之内ナルヘシカルホルニヤ失法
其相政治ハスヒンクトンノ支配ニ而近年開国ニ相成候

近年大国ニ開キ度由ニ而是迄アメリカ王ガ度々日本
国主へ備願候得とも許容ニ不相成候ハスヒンクトンノ王
命ニ依テ便船ニ而渡来寛永来年之国主ヘ開キ候而右之恩賞ニ
大国之渡ヲ進ニ付之主命ニ而渡来之由ニアメリカ王ガ
書簡式ハ相渡候ニ付数正書中清国渡来春之ニ御手当て
在港候船之若日本国法之由ニ而一先清船ニ候ハハ七月迄ニ
又々在港之其年中ニ候ハハ数船七艘渡来候旨

残リ一艘尚南京之様子承リ候者ニ積リ而浦賀ニ着之由
拾艘ハ上海ヘ一ト先ジヤハマテ相越候由又ハ之候由
右五艘後者当年七月頃ニ参り居候由中ニ而若和蘭陀
亜墨利加船ニ而当年中ニ帰国参り候由来年春中ニ出帆
数艘之船大船ニ而川へ参り候由中ニ而ゆり候由
一此節大清広東楽を明之皇統継り荊州湖南湖北河南湖
一条ニ相取候由

一右四艘之渡来船同年五月十九日北アメリカワスヒニグトに
湊出帆大清蘇州右浦湊ニ滞船六月初旬右浦湊
出帆琉球国ヘ船ヲ寄夫ヨリ浦賀湊沖ヘ六月末之未刻
浦賀六月九日相州之浦賀ヘアメリカ国主之書翰差出候と
数多ノ舟アメリカ人ハツテヘラ十四艘ニテ上陸
上官
官名コワフルヘセツルヘフール御老中ニ当ルカ右人之名ハ
コツテヘビー算盤之総家役職イホニツト ボルイフ 全房ノ下之

多シ附腹ノ曰

將官

官名ヘフヱルベツフル第年壽ニ南ルカ

其人之名ブカナ之年齡五十八歲但小男

腹從インヲト上官分ケ之

一 副將

官名セスフアンテンアトテールスヌツ其人名

アーダムス年齡四十八歲但澤イホシツト將官ヨリ分ケ之

然ナ其之ニ南ルカ

キイテン四人年齡五十八歲但弐人四十八歲但其人

二十八歲但其人腹股門口郎含房副將イ分ケ之兼

士ニ南ルカ

ロイテフニトヨニイル拾弐人腹股ノ門郎含房

鉚革ヒストンヲ腰ニ指鉚鑓ヲ指揮ス

勢力ニ南ルカヰフニイールト大拾人ヲ從腹股ノ

日新塾士ト遠
足軽ニ満ルカツルダート 百八拾人阪服股引 紺
百拾人ヲ一組トス 和蘭陀ニテハ四十八人ヲ一卜ヘニ
トニト云トモアメリカニ而ハ六十人ヲ一卜ヘニトニ
ト云カ二組ヲ別ニ一卜ヘニトニヱココニタニト
二人宛付指揮スワルタトアトルノ組ト加ト四組ニテ四ヘニ
トニニナル

大小銃組壱人 服紺股引白　小銃組六人 服日新
携筒持之箇 三人日新　明珍笛弐人 日新
長刀不足
チヤルメル弐人日新　鐘 弐人 日新
籏担白 ✡ 如新不足籏 壱本 将官先ヱ立ツ
兼白扇之紺白取帯下 籏大本 其余人之心得重ナリ
右之通兵箇
六月九日於久留里村之海岸野陣書綴出候各級屋而
御奉行

戸田伊豆守馬印籏壱本　家来馬印二騎　馬下壱本　長柄弐拾筋　百五十目野戦筒二挺　鉄炮四挺

惣人数三百人　井戸石見守馬印籏壱本　馬印上

長柄弐拾筋　鉄炮弐挺　馬印弐本　惣人数百人

大砲組頭

辻茂左衛門馬印　馬下壱本　人数六人

両御奉行付組与力同心　應接掛當番四人奉行

御国与力七人　兵粮方同心弐人

西洋流鉄炮師範役下曽根金三郎　馬印四ツ位

ゲベエル筒掛与力弐人

大砲打同心壱人

ゲベエル同心四拾八人

但ゲベエル与力中ハ銅鉄炮之事

井伊掃部頭陸国

青頭八人

物頭拾弐人

物頭壱人　足軽七百八人　惣人数千弐百人

松平誠九陸国
番頭 物頭 惣人数 七百人
松平淝濃号船国
番頭 物頭 国船 七十弐艘 惣人数
有之通門ヨ松久保浜村書絵江信兵衛之荒浜国
御書永国
番方 六人
同心 弐拾人

異国船ゟ出候物 五月十七日
一 錦 五巻
一 吸物椀 五十
一 壽世局 五千本
一 唐扇 四千本
一 鶉 百八拾羽
一 鶉卵 千

右ハ米夫隊沖ニ積寄服ニ付 大意写

国王之書翰及ヒ漢文并之副書ハ大統領国領ヲ捧

度意ニや此節者外国ニ応接之地ニハ行と成ル之丈ヶ

長崎ニ罷越之処我炎ヲ談中ト以之儀 使者上陸致シ

然ル一分ヲ不差出直ニ持切申立度ト遣之候ハゝ 此等

拙者共ニ而申受候ニ 御国法ヲ破りかたし 此度ハ

使者之者当港ニ来リ 御書翰請取之儀ニ

応接之地ニ而ハ無之候得ハ応接之事ニ及ヒ兼候 其段ハ

御許容ノ上 使人之義急キ速ニ帰帆可有之候也

嘉永六年丑六月九日

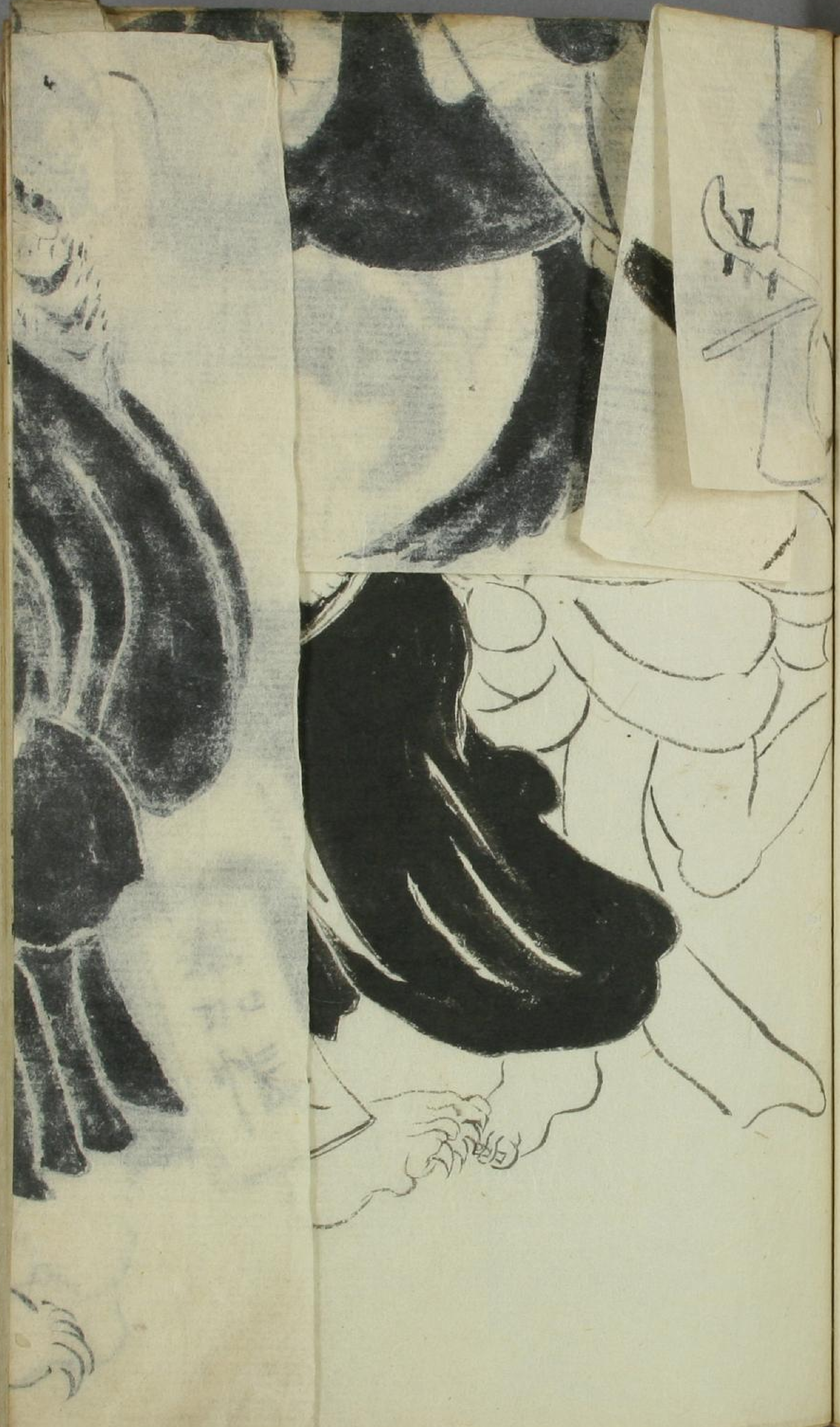
今年長陽譯官より申上由
嘉永六年四月十四日聞
今茲癸丑清咸豊三年二月大明朱氏ノ
後裔歳僅二十四有奥復スルヿ先朝ヲ大志不用
清之年号皆用明律明服改元大徳擧

丑ノ
二十一歳

白真弓肥太右ヱ門

飛彈の國高山在の産にて浦風林右ヱ門の門人なりし身材七尺余目方四十五貫目力量五十人に對せし國にありし時常の所業米五石をも持の強者也右の力士當秋回向院於勧進相撲土俵入仕れ

けし絵緑も
こゝろへありけ
の絵なり



奉加帳

一 たのしみきいてぶきちやとへいぞしや

一 かつちうしアメリカサマト持つとして

一 もぎさるとりつこの身もあべ出て
かしもきの道ソ揚のうし風

一 アメリカハ未た日本公同がナし

一 店く持くのちやちんせうとやありして
上蹄めぢやんく芸ハ太こう子

一たのしみきくとぶきちやとへいぢしや
一かわちもしアメリカサアト掛つとして
一まぎさつとすつこのあめとあべけ候そ
一アメリカ、末ハ日本ハ何がナニ
一風く神くの大やさんせうとやありして
上野めぢやんく　芸ハ大こう子

一ぢんきやうすいこてのげうれつを

一ろうきんぎん称づふだ所　アメリカモノワカリマセンカ

一アメリカニあめをふらして陣しけり
こゝまでも浦賀の番所りしくて

一そのすゝ世代がしろすけみゝうすめさゝれん
アメリカ舟の水戸のよきこのみ

一ぶ縁のでぬらちよいこてのげうれつ
ほぶひしられハ浦賀たん庵ん

一アメリカごほしから茶をとめちにつき
おえ身へだらりたんとできます

秘 興操られ武士

騒動は業未術世上乃噂紙少なきよ先年営
唐人務て交易し其時次第よねらひてころもの
返事紙ちまち出ぐよし国よ此ア蓋氣取られ
薬よしこアメリカ香退て為何雑さむ出あった
戸田さむ浦賀乃法青場かてらになるのハ
稲まうハいへともおもゑんお息きさと　勘定奉行

乃自分乃法律に諸人の不律にせしも
この度は上納金をとるのいらぬのやはさ
ころさといつたあけくに御免せての家名
きゐ辞ませて孫へ乃酒宴をなかりぬと
むかへこゝにふさゝしぬかへ屋しほうの大層
母乃大前騒きてまうないとかたる事さ
をなしく時に晝錦ませとふいつふるけさよ

手ニフニカニヲ法の講義やうちし和解し安いう
くるまと思つて一けにしとて少しふ朱子の
うよ文武しと今文法をひろく姫まちん
母うされと同前いふもといそれ次かない
むとこゝろえ屋をわに尚前金の箇一やうし
いせさもとふつたものによ此をもちらした
法廷なんとん紙引次をいふしていつまが

あるの外にも人乃いくらもあるうちに江川
はうきこう上書とそあけ此とも行要な
浦賀なこの申そ沢鼻乃さきなる品川沖と
あく人なかまのやくなる入札法臺場二ツや
三ツ拵らへとそふるあるめのうよ地乃
利を人の和をあるまじう沢と孟子のおやし
をいつたてなきのよわしく甲府へおいらした

あそとて言語同断の編みふを取しも
あしね人を徒麻侍洋借金ても相もしろ
銭うし嘘めの文句てやうふくしよきのると
越中ふんとしふるきれあんそ政おねんまと
いのしこ出しもて文句しや今此そうせ
い中くいのねへ捨くなる召沢徳とあるける
金満なんそい公儀沢身てえもとふもあるまと

徳にもとる御代に来るわ已しきの勝手
我まゝ辞をはなさとく然らく西洋常式はすもと
見ならひ方くの業を正しく武威をとはく
せんもとよりさうとき日本ハ神國
アメリカイギリロシヤ人歯のたつものゝよにあらぬ
吹や沢神風しちけねへこんさよ

嘉永六丑年秋　流行

ちよぼくれ

扇ぶし諸きんせつイてるもん福ハ今年う
諸国其ぞ近海一列の大筒沢山の武具
多くの馬具の大名物入金銀無ハ
去る年御て所もそもゝく百姓難義
て隠居さんへ八歳付撫て二月十年と

役々番附近や今に至る絵ても
つ遠しく〳〵

役者見立当世評判記

誰か見てもいふ所なれ
老功当時日本一太夫元の

駄洒落居士
七代目 白猿

役者評判能く嚢もにく所なり家ふ
まこし根源の辞千秋あやかれ多れ

梅山 伊勢

帥言や

見立立流行の役者に三五年也

小舟橋大間
嵐吉

好人に好かるゝ誰も人かしらひとふしの人なれ
皆様の出来と
尾上松助
来人舞台を賑せても第一とつゝ之旅よ
瀧亭の娘を
嵐福寛
来ても人に好かるゝ
長屋叙
中村歌六
器用に見え之所に極ありて芸にて
いかうまくされかゝりる
翫洋流の生々(ナマキヽ)
鉄炮(テツポウ)
市川小團次

何をさせてもさらひすく鯉屋の娘が
男舞かど
江川吉左衛門
嵐三十郎
京西若イ藤芸も未熟くが寄附きりの
具足師
岩井粂三郎

上手下手にかゝはらず人よミの道て
寄附ありてハ度々の兜ケ鉢え
具足師
八代目
よイ度を揃ふして貴公を頼り鉢の
あと蔵よりとりかゝりまする
雛屋仕立の具足
市村羽左衛門

荒増地蔵めぐり先第一の御名をと思ひ候へ

調練進退
坂東秀佳

海老の役人日本一の跡つぎ家秘
まつうらまそもうわるくてふ妙う
海老恵まつしゃくへの奴ま恵み
又々候へ

尚上下
中村福助

老松 トキワズ

梅の香乃目出度萬歳楽清通
越後の野も頭ひ錦繍の代々を
ゆうし古今のいろも見ゆ盡の時節
の牢のとしと天低にかき見る太平志
たきつに咲もしは咲ち行乃代

あとおんと小松のみどりをとまりあり
家よあ様方からうけたまはれげすと
なり賀と存色迄ゑ御家のよ
ねすをゑる御めさきてもの
ゑもさをるしつは時うし大坂
御ふ御意をと思ひゐらり給ひせ

より松と年とゐやり国に
御所松年あかる出し後の余
奇れと花ふさけく山あ原も
神の御風吉方の大筒小筒も
返し小縁陸とそつて川と
其余の身めと打すいとひそ御心候れ

長唄 松永千十郎

三弦 杵屋六三郎 同 佐四郎

大筒ミ 其儘佐吉 小筒ミ [illegible]

板元 戸田屋 伊戸屋

阿部仲坊主 戸田八百蔵 井上佐之助

京鹿子浦娘道成寺 本牧座

上下

〽[illegible]女の[illegible]くかいせうへいかゞ
ことさらでとも[illegible]ことぞのひん
弥太ゆゆうしもゆふきで[illegible]く
鐘[illegible]さんすんの[illegible]
ぐやくせいんをところし
ふりつとふって[illegible]んさよ

かゝる二帖ハがつくこさるやらでかゝるをもる時世上
めづらしと云ぐくあり亦これかゝるを世も御ハ世上
おもしろしと承るあり鉄炮の云ひさゝハ生めつ
めりの大筒ハ是も向いらくと云くかり
写てかくろく人手りあれも見立てを
もれやうに陣屋ゟ月を頭ゆさん

そても禅られし場風に乱をんみさるも
つ道あるいかさうて来てとふてもあめりう
致性者ハくらとうたされて夜の付書かん
宿蔵さへ書てうかしとぞふでも阿の字ハ
ちくひや着かさのそなへハ帽子あしや
「思召承てぶしもかゝ見立を
来たりといきぢの実名「記の白江戸ハ

日々に御用之商人（倫之）勤するものハなれ
もやじがら御出馬金よかんの盃まて
うら黒無患子より浪をけみて通
ひ海路と煙りかゝせて一社の子
のりまがゆんに出じや（一イ二三イ四ウ
四そう来一社の浦賀園路も左に
海道もかゝめそてあるハなかまち

よ前ゆたと三てさハかし　ホと
あやつく

六月三日より九日迄の分

芸京極女上代金　三十七百文

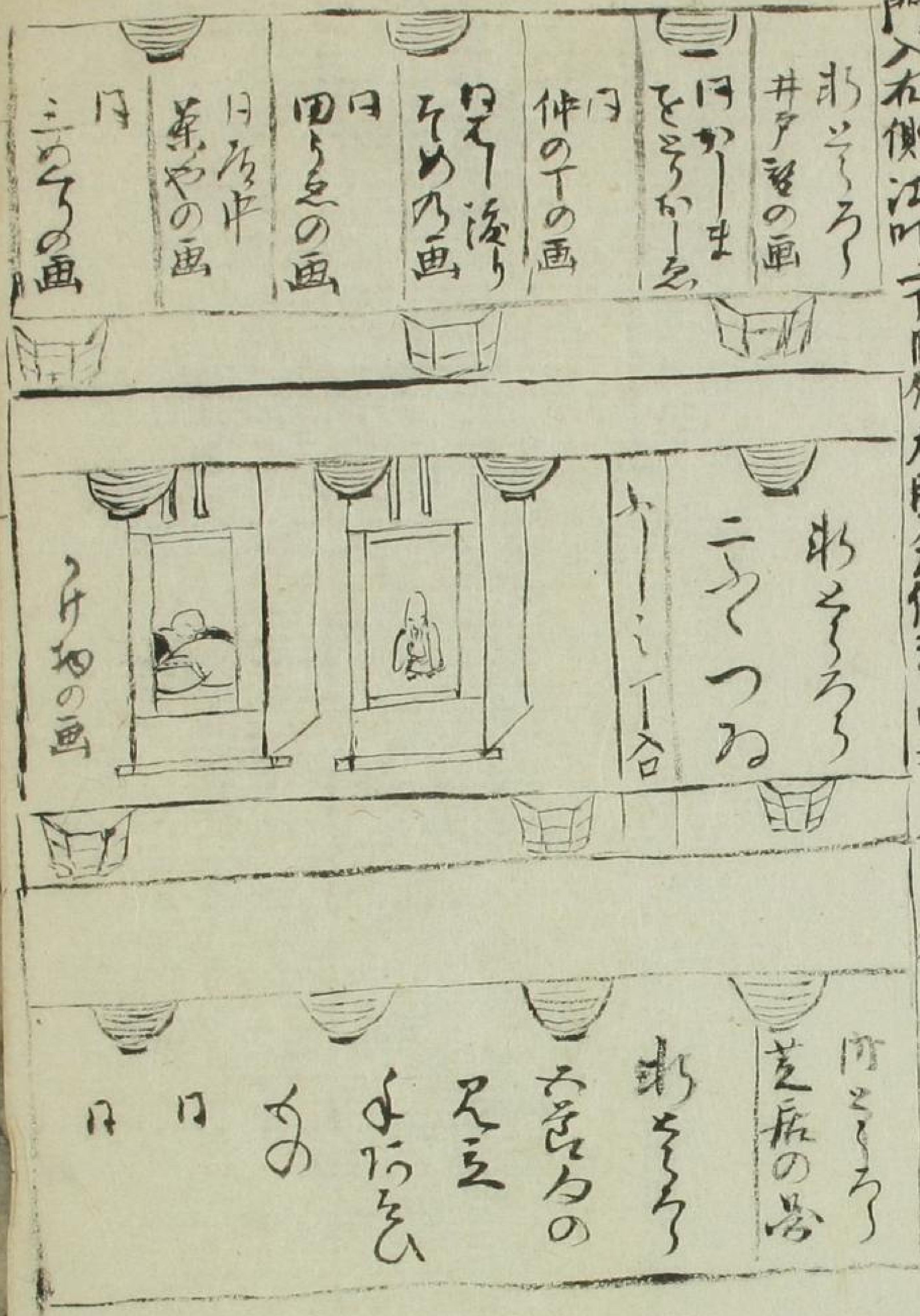
一吉田角町壱丁目神初　日数七日の分

一極女斗上代金三百七十文也

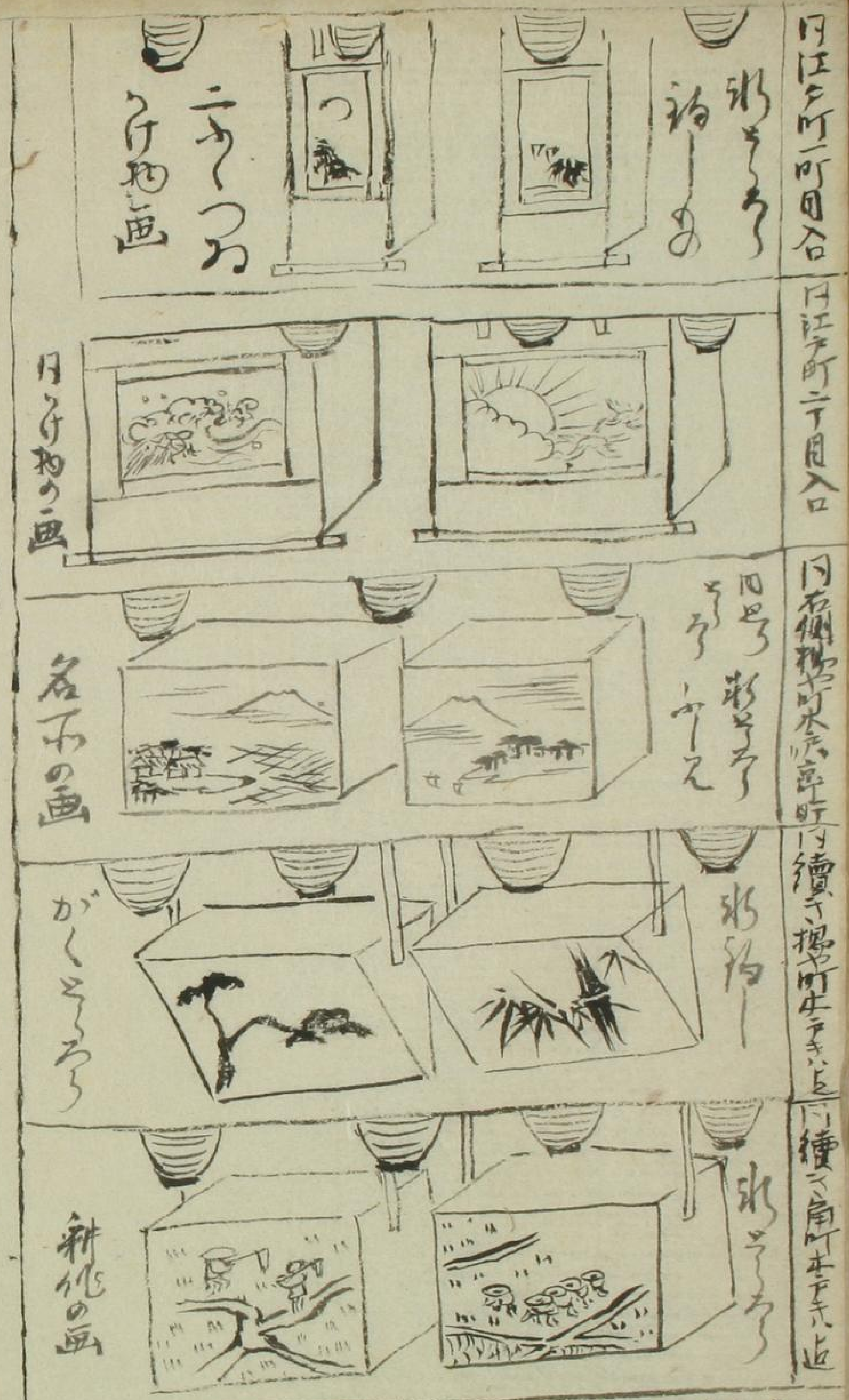
新吉原燈籠番附

大門入右側江戸町一丁目分　大門入左側江戸町二丁目分　同左側角町水戸ヨリ先

安永六丁酉歳　七月



吉原町



花柳園ハ弘化山三扇花徳之

同 燈籠
斬燈籠
絵張或ハ
硝子細工
竹細工

花柳屋

若板

三

○ちかごろ僕の家に
ちる薛家と噺て
知らうして謡ひ
かしこき女房があそび遊
遊びを噺ていふ
うちに芭蕉翁の
句にも一道ぎの
欅は馬子の色もうト
ふらふ馬気のまるて
かへに
盡きうすしとくさる

詞あれぞ人をしれ
秘うききやなるる
案所なくもせぞ指述へ
へござうす十あ歩子
り玉へにし

七

二つの
掛物画

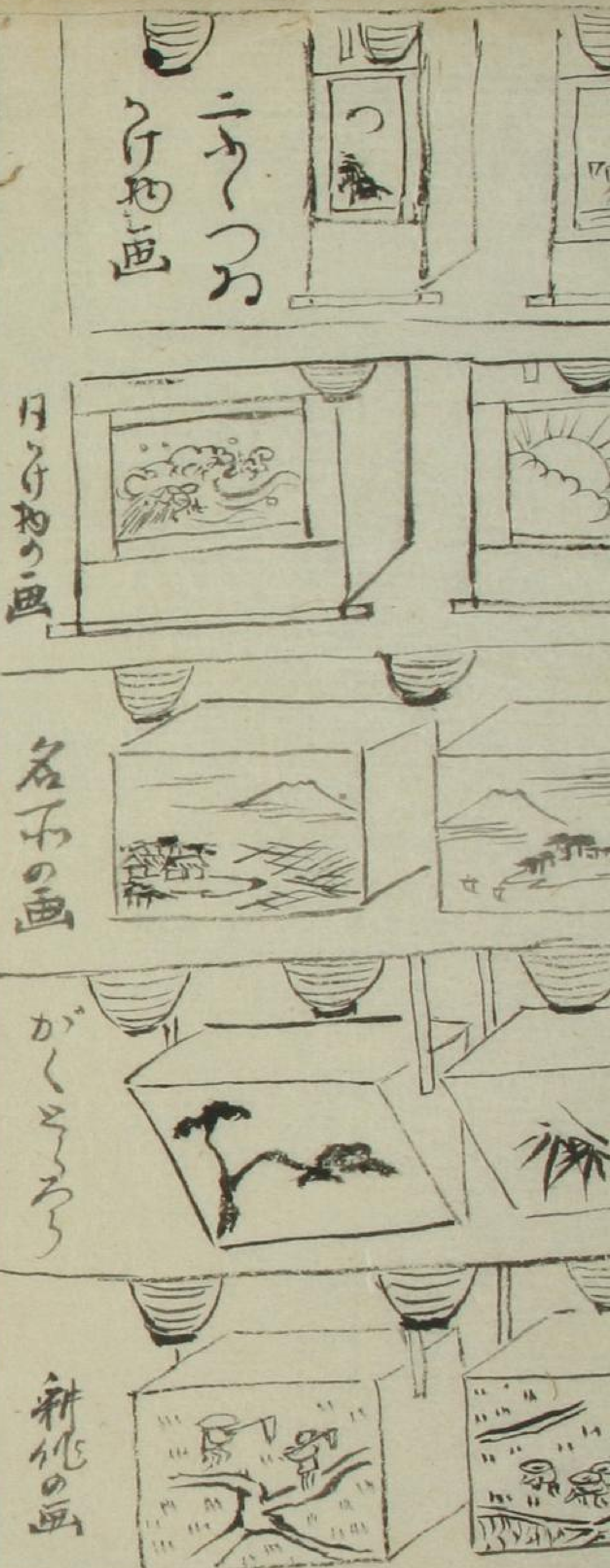
月かけ物の画

花柳園いつも山三扇名[illegible]

名所の画

がくそろへ

新作の画



竹細工
苦心て[illegible]
家業は[illegible]
[illegible]
[illegible]

花柳亭
蔵板

五
冬の風

○ヨヤ〳〵皆さん
玄妙か神妙なる
[illegible]の[illegible]事を
この[illegible]と聞えまさん
うち是非[illegible]の一ツ
[illegible]ヨー十
とみ
[illegible]で久まてハ私か[illegible]
牛込の愛宕さんに
[illegible]
[illegible]と[illegible]

勤めして[illegible]て
下さるのか
悋気らしいの[illegible]
異見らしいがまふ
聞とのもやんせ気識
[illegible]も讀[illegible]
怠惰さん[illegible]嫁
とてナンノ立世[illegible]
を學もめるヨイ
チテントンシヤン

○娼妓ハ卑しきものなれど皆一芸に秀ても好んでなる者
世の為にしも親
兄弟夫の為め
拵へ芸娼妓に沈みを
主人の家の気を
取り勤むる心掛ハ
中々容易なるものに是ハ
有り賎みを堪へて
家ともてなし
嫁に家の衰微勤を

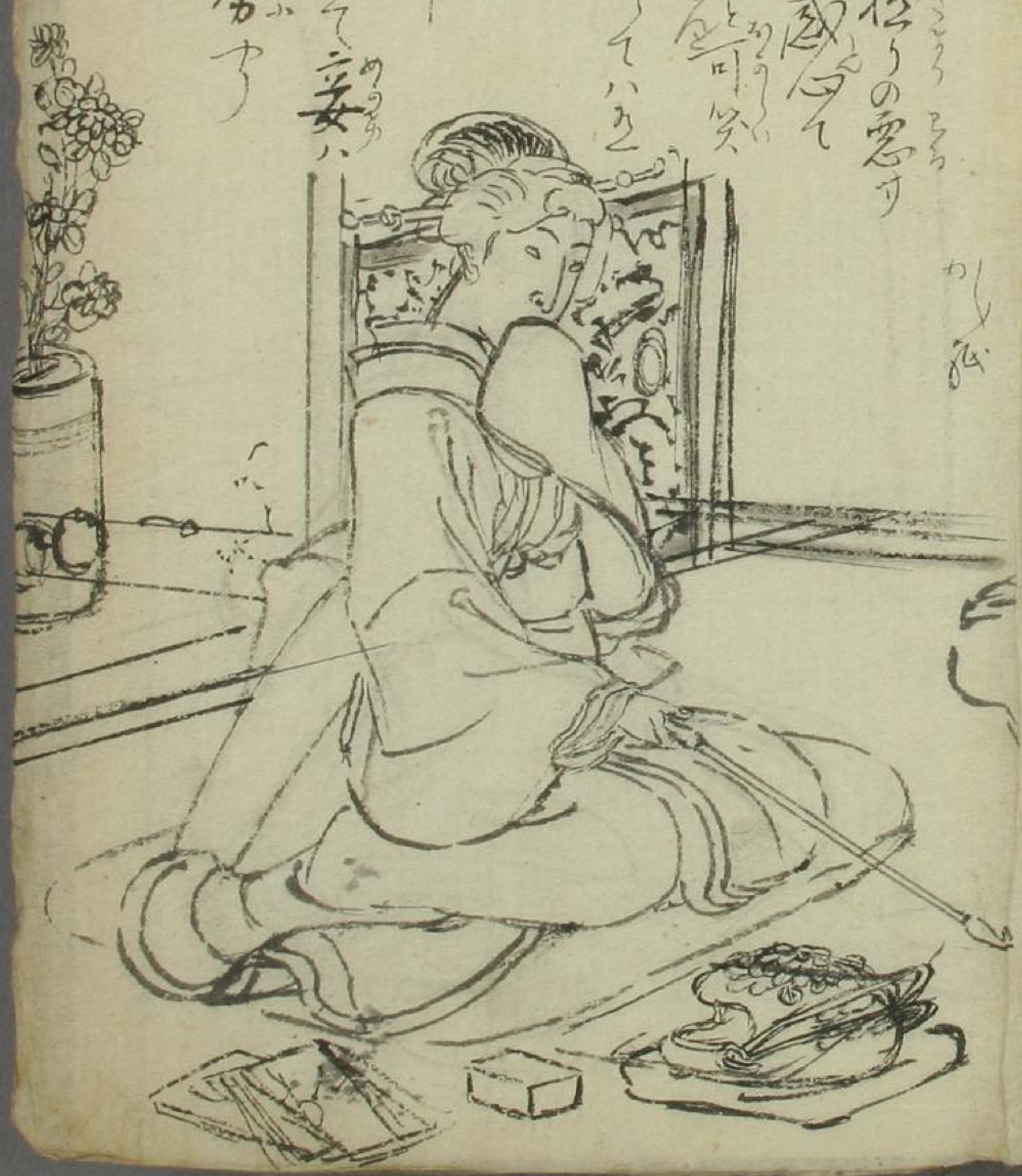
如市
ゆゑを
もつて春

仕へて勤
るのをあらん勤
ちかふ家の心を
悟らし

八

○御方ぐうゝふか〳〵一
中なすが七五旦那の
入来ゝ嘆ツイ私ゟ
麁末を詞ゟ
御出家ま旦那が
そとしと揚し下女の
さんゟ湯ゟ居い
しつけ私て
ます定元ねまし
私す銭のせつて寝て

れ
下さるさく払りの思サ
家さんも感心て
ゆ花ゟ称と可笑
志ゐぶ虫して八ちゝ
ませんへう
玄川抜ゟ
居るとしつて妾ハ
ゟ如きゝ分ゟ



八

九

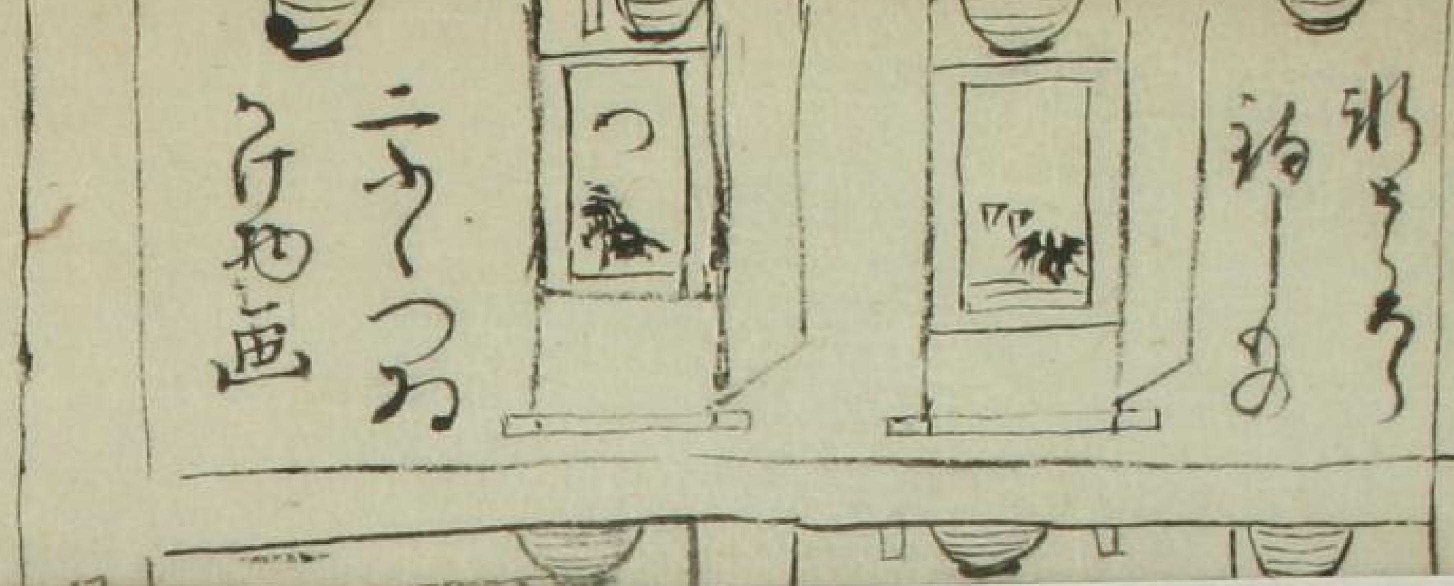
圖

○周の世よりて昔し
唐土孝公啄とふ
人いまだ五弦計にて
國を治めし
あらく治まる事たる所
此調を下して三社
琴ハ錦吉様の名世
流とをと曲名の詞と
調子占めて面白め
まのよい遠ひ風流ろ

まゐらせん遍ちと
かつらがたり終りて
親達のちからしくの
家業の
ちとちとも
あめハ楽しみを遊ばせけ
幼女ハ気の小辺
であそびかならるか

九

同江戸町一丁目合



同江